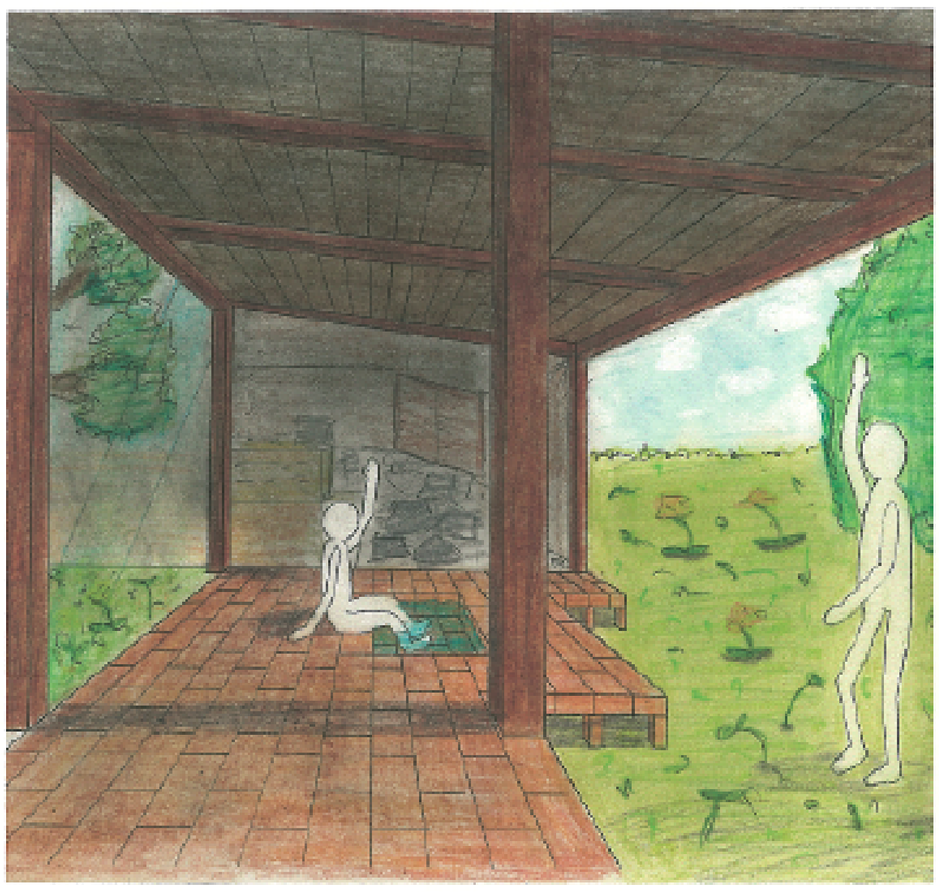
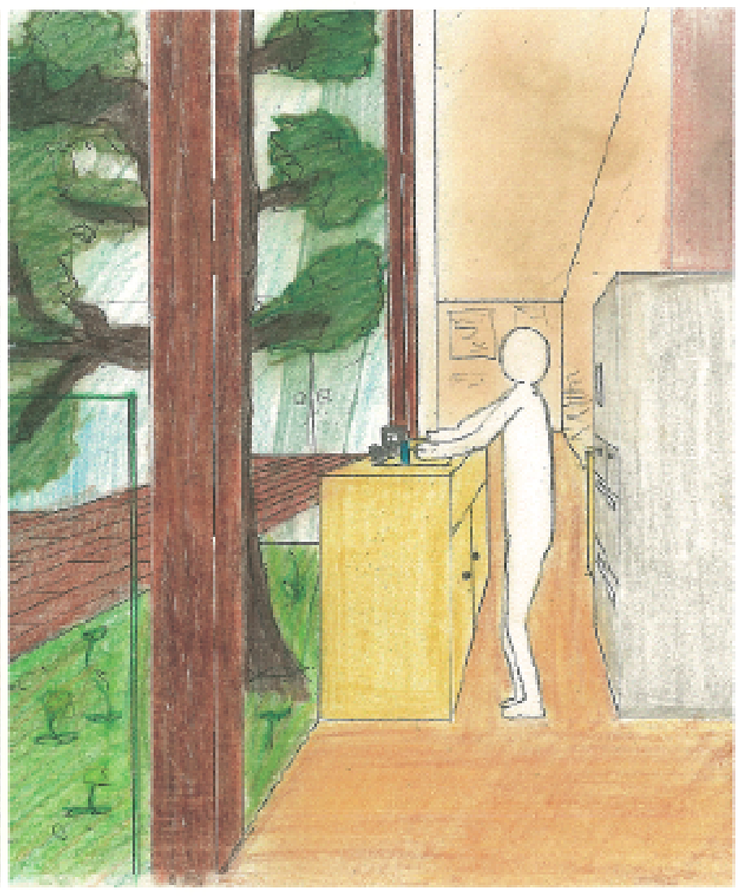


① 東テラス　足湯

② 南西　和室



③ 中央　キッチン

水回りを一つに集約することで、コスト軽減もでき、掃除も一連でできるという

住宅に回遊性を持たせることで行き止まりがなく、また中心がガラスになっているため、圧迫感がなく、家を広く大きく感じられる

家の玄関と駄菓子屋の入り口を変え、プライベートとパブリックを分ける

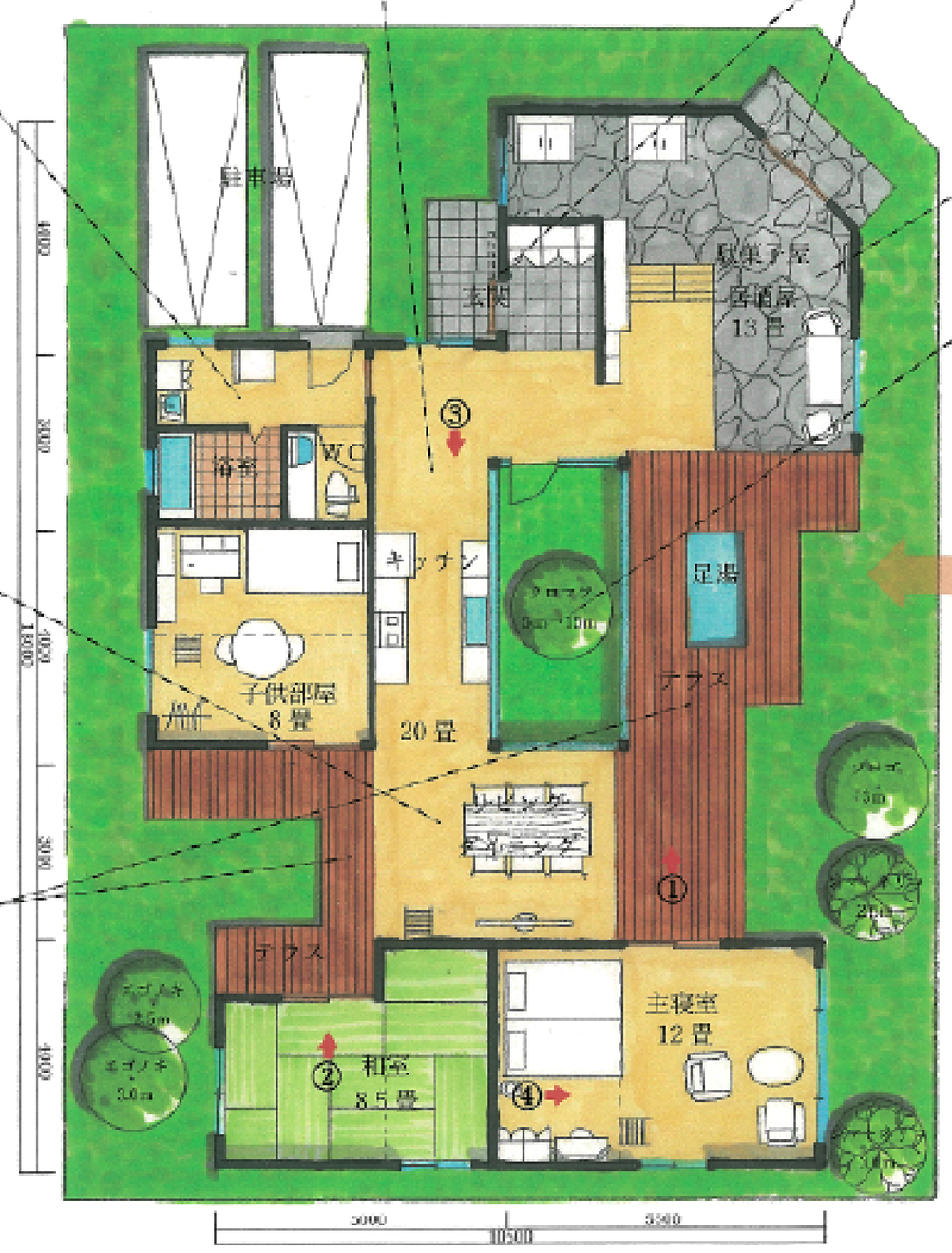
昼間は駄菓子屋、夜は居酒屋として経営。常に人が行きかい、賑わいを感じられる

家の中央に緑を置き家族の成長とともに樹木の成長を感じられる。また天井が開いているため中心から光が家中に降り注ぐ

地域の人が気軽に訪れられるような空間。時間が経過しても思い出が残り、記憶が蘇る

それぞれ個室に行く際、リビングを通るので誰のも会わずに部屋のいくのを防ぎ、家族間のコミュニケーションの発生を誘発する

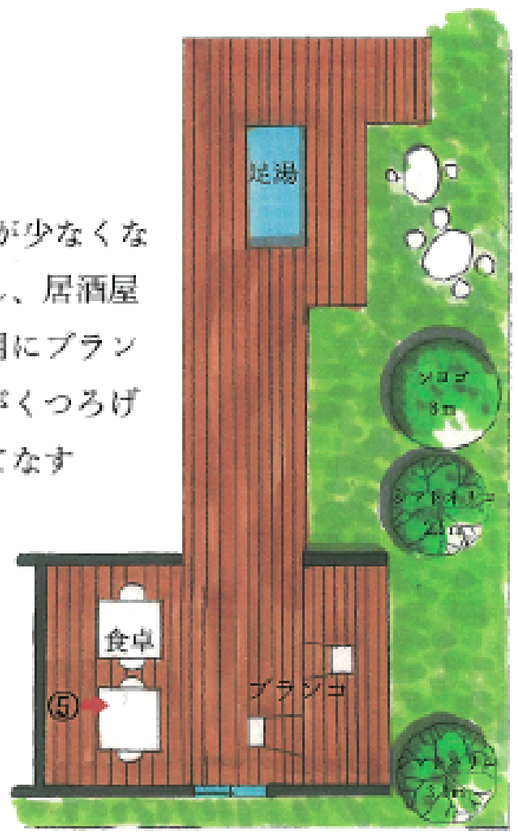
2種類の縁側は東側をパブリックデッキ・西側をプライベートとデッキとし、外と内の空間をつなげる



配置図兼1階平面図　S=1：100

50年後は家に住む人が少なくなるので主寝室を改装し、居酒屋用の机や地域の子供用にブランコを置き、地域の人がくつろげる空間をつくり、もてなす

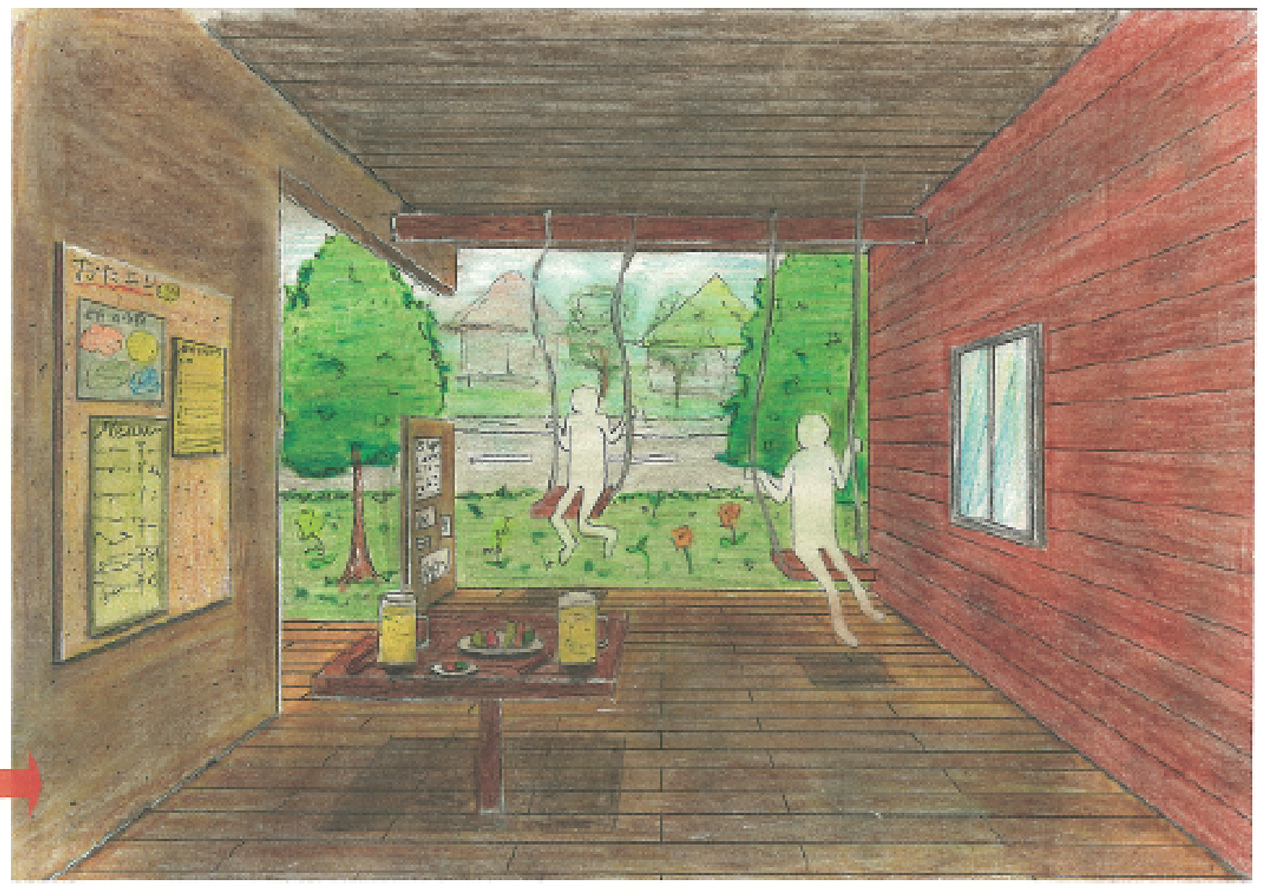
リフォーム後



50年後　平面図　S=1：100

④ 主寝室　現在

⑤ 休憩所　ブランコ　50年後



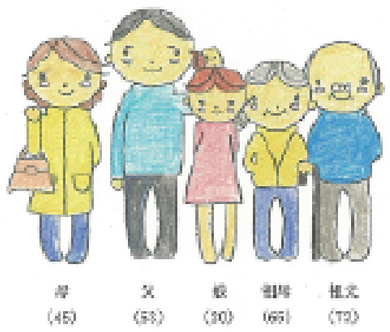
人を結び、つなぐ家

登録番号　1608154

50年後も住み続ける住宅を考えるとき、未来にも対応する住宅を考えることが普通である。しかし、ただ未来に対応した住宅は人にとって住みやすいものなのか。人同士のつながり、交流が家族をつくり、家をつくり、町をつくる。同じ行為、同じ食事をしても、その日は他の日とは違う。継続していくことも変化の一種ではないだろうか。祖父母から両親、娘へと思いが結びつながれていく。部屋の用途を変え、体感的に変化を感じられるものをつくりつつ、家の中心には松を植栽し、家族の成長とともに樹木が成長する。松の大きさごとにその時の思い出が刻み込まれ、松を見るごとに思い出されていく。これは過去・現在・未来をつないでいくことになっていくのではないだろうか...

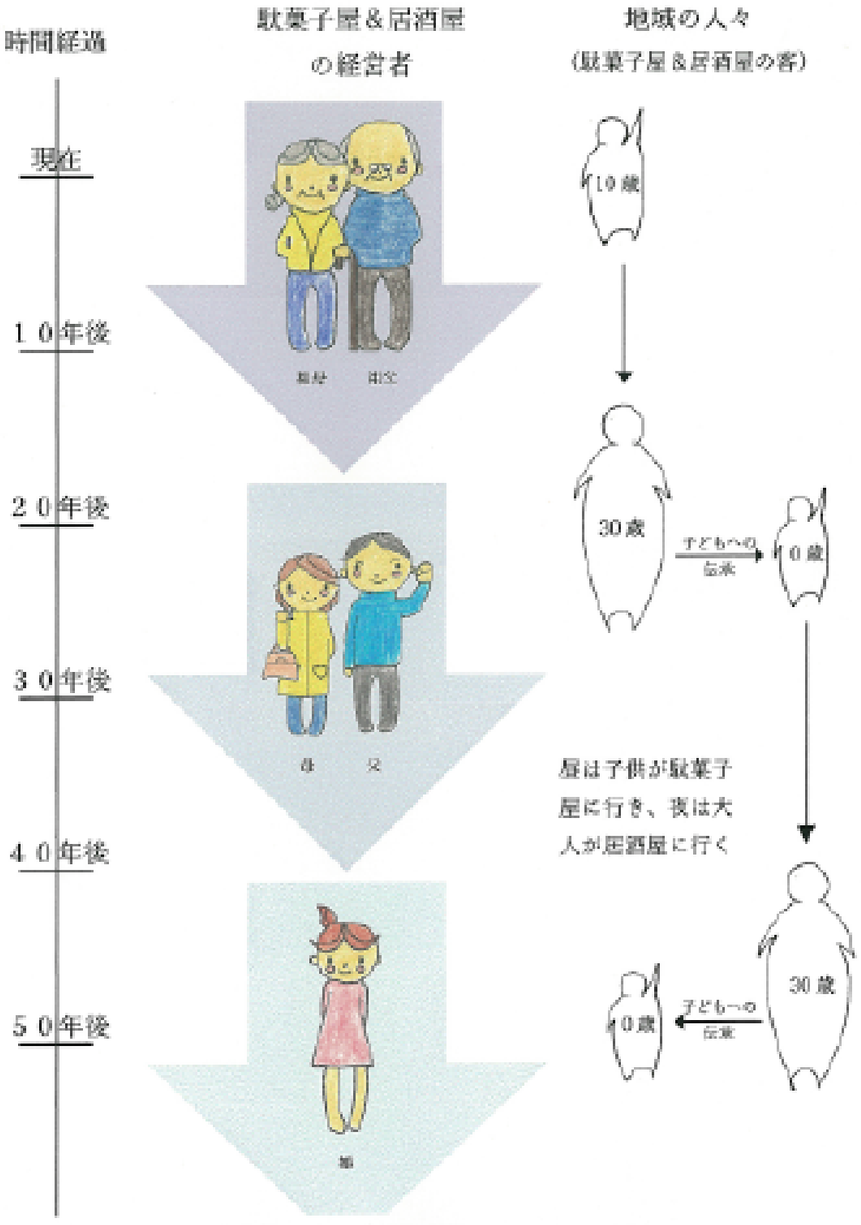
家族構成

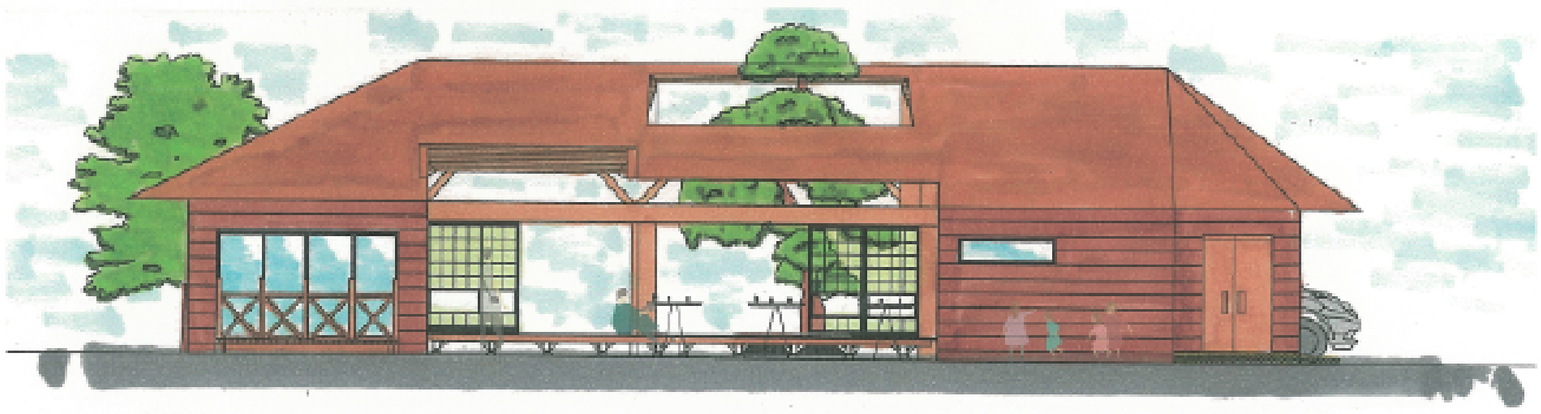
○現在



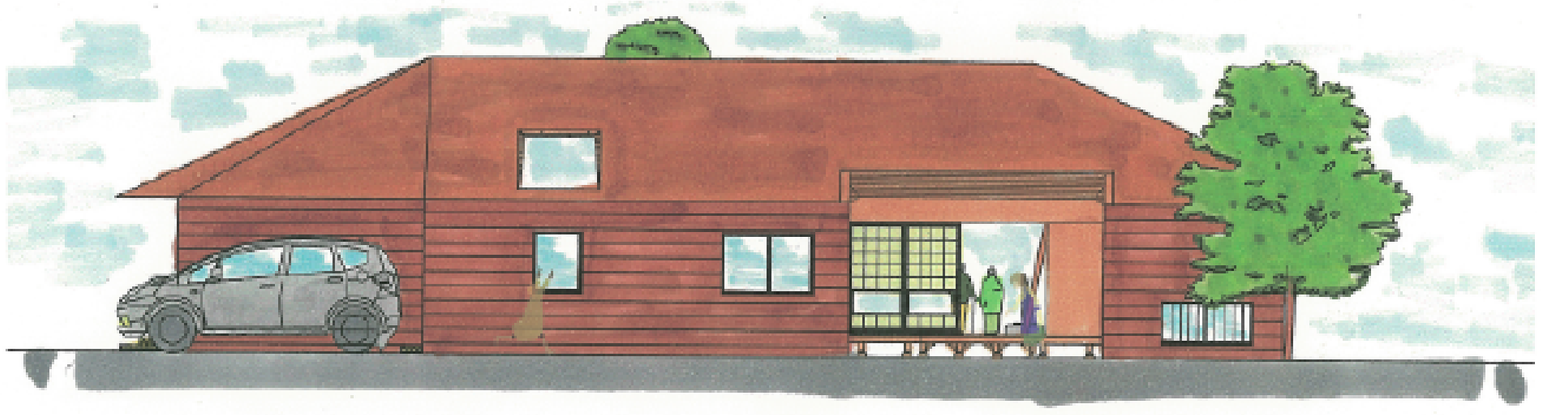
○50年後

家族の時間経過

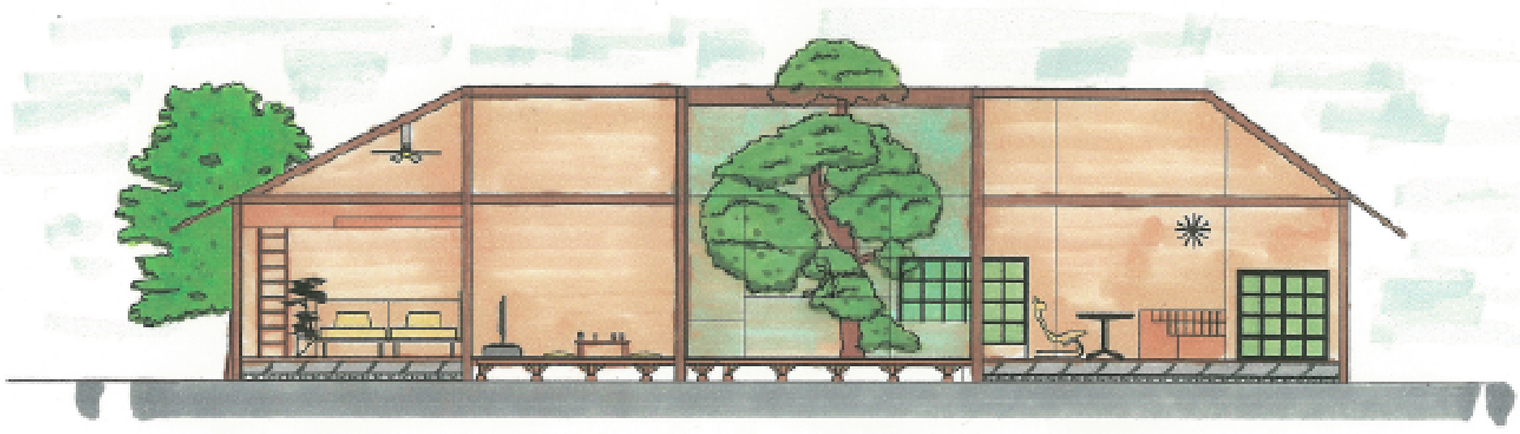




東側立面図　S=1：100



西側立面図　S=1：100



断面図　S=1：100